

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
デジタルツールⅡ		柔道整復学科／2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授業の概要				
デジタルツールを使った配信技術				
授業終了時の到達目標				
OBS、Discord、YouTubeを用いて、配信スキルとデジタルコミュニケーション能力を習得する。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	授業の目的・進め方を説明 デジタル配信の基本概念		
2	OBSの基礎設定	ソフトのインストールと基本UI シーンとソースの使い方		
3	映像と音声の最適化	解像度、フレームレート、ビットレート ノイズ抑制と音質改善		
4	配信レイアウトのデザイン	オーバーレイと配信画面の作成 文字、画像、動画の活用		
5	Discordの基本と活用方法	Discordのインストールと設定 音声チャットの設定とBOTの活用		
6	コラボ配信の仕組み	DiscordとOBSの連携 複数人での配信テクニック		
7	YouTubeチャンネルの作成と設定	チャンネル作成とブランディング 配信のスケジュールと告知		
8	OBSからYouTubeへの配信	ストリームキー設定 ライブ配信の開始と終了		
9	トラブルシューティング	映像・音声のトラブル対処 配信が止まった場合の対策		
10	リアルタイム配信の工夫	チャットとのコミュニケーション インタラクティブ要素の追加		
11	配信後の編集とアーカイブ	配信の編集方法 サムネイル作成とSEO		
12	視聴者分析と改善点の発見	アナリティクスの使い方 反応を踏まえた改善		
13	応用技術（モバイル・特殊効果）	モバイル配信 グリーンスクリーンとフィルター		
14	最終配信プロジェクト	グループまたは個人で配信実施（期末） フィードバックとディスカッション		
15	まとめと今後の展望	学んだスキルの振り返り 次の目標設定		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:50点以下とし、C以上を合格と

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
デジタルツールⅡ		柔道整復学科／2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
本授業では、柔道整復師としての臨床業務や接骨院運営において必要となるデジタル機器の活用スキルを習得することを目的とする。特に、レセプトコンピューターを用いた保険請求業務の基礎知識と実践操作、タブレット端末を利用した患者情報の管理・説明資料の提示・予約管理など、日常業務の中で求められるICTスキルの向上を図る。				
授業終了時の到達目標				
学生は実際の操作体験を通じて、柔道整復師としてデジタルツールを効率的かつ安全に活用するための基本的なリテラシーと応用力を身につける。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション／ICT活用（レセプトコンピューターやタブレットの利用）と柔道整復師	授業の目的と進め方、ICTの必要性、接骨院業務とICTの関係		
2	レセプト業務の基礎知識	健康保険制度の概要、柔道整復師の保険取扱、レセプトとは何か		
3	レセプトコンピューターの構成と操作①	ソフトウェアの基本画面、患者登録の流れ		
4	レセプトコンピューターの構成と操作②	施術内容の入力、傷病名の記載、入力エラーの防止		
5	模擬患者データの作成と入力実習	症例を基にしたレセプト入力の演習		
6	タブレット端末の基本操作と設定	Android/iPadの基本設定、Wi-Fi接続、アプリの導入		
7	タブレットを用いた患者情報の管理	患者カルテ管理、施術履歴、クラウドとの連携		
8	タブレットによる説明資料の提示	患者向けの図解説明、運動指導動画の活用		
9	電子カルテとレセプト連携の理解	電子カルテとの連携方法、セキュリティの注意点		
10	接骨院における予約管理とICT	タブレットでの予約受付、LINE予約、スケジューラー		
11	トラブル対応とセキュリティ基礎	機器トラブル時の対応、情報漏洩対策、パスワード管理		
12	保険請求ソフトの比較と選び方	市販されているソフトの紹介（柔整用）、導入の注意点		
13	レセプト請求の月次業務と点検	月末処理の流れ、オンライン請求、エラーの確認		
14	事例研究：ICTを導入している接骨院	実際の接骨院でのICT導入例の紹介・考察		
15	総まとめ・プレゼンテーション	ICT導入計画の発表、授業の振り返りと今後の展望		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		出席率 授業態度 期末試験またはレポート	10.0% 10.0% 80.0%	・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格と

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報リテラシー I		柔道整復学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
ビジネスメール、PowerPoint、Wordの基本を講習します。 ビジネスメールでは適切なマナーや文の構成、PowerPointでは見やすく効果的なスライド作成、Wordでは文書作成と編集の基本操作を学びます。 またプログラミングでは文部科学省推薦のHour of Codeを使って、基本概念を学びます。				
授業終了時の到達目標				
ビジネスメール：社会人として適切なマナーと文章構成を習得し、効果的なコミュニケーションが取れるようになる。 PowerPoint：見やすく、簡潔かつ説得力のあるスライドを作成し、プレゼンテーションで自信を持って伝えられる。 Word：文書作成や編集の基本スキルを習得し、正確でプロフェッショナルな文書を作成できるようになる。 プログラミング：プログラミングとはどういうものかを理解します。 これらを習得することで、日々の業務でのコミュニケーション力と作業効率を大幅に向上させることが目標です。				
回	テーマ	内 容		
1	ビジネスメール講習	基本構成から件名/敬語/添付とCC、BCC/返信のマナーなどを理解		
2	PowerPoint講習① 基本操作の習得 プログラミング講習①	PowerPointのインターフェース（リボン、メニュー、スライドペインなど）を理解。スライドの作成、削除、コピーの操作を学ぶ。ファイルの保存形式や印刷オプションについて説明。		
3	PowerPoint講習② スライドデザインの理解 プログラミング講習②	デザインテンプレートやテーマの適用。色、フォント、背景のカスタマイズ方法。スライドマスターの活用で全体の統一感を持たせる方法。		
4	PowerPoint講習③ テキストと画像の挿入 プログラミング講習③	テキストボックスの作成と編集。画像の挿入とサイズ調整、トリミング。図形やアイコンの使用。		
5	PowerPoint講習④ グラフや表の活用 プログラミング講習④	グラフやチャートの挿入とデザイン編集。表を作成し、データを効率的に表示。データの視覚化の基本原則について触れる。		
6	PowerPoint講習⑤ アニメーションとトランジション プログラミング講習⑤	アニメーションの基本（テキストやオブジェクトに効果を追加）。トランジション効果を使ったスライド間の移行。適切な効果を選び、過剰にならないように指導。		
7	PowerPoint講習⑥ プレゼンテーションの準備 プログラミング講習⑥	スライドショーの実行方法。ノート機能を使って発表用のメモを整理。時間管理（リハーサル機能の活用）。		
8	PowerPoint講習⑦ 上級テクニックと最終仕上げ プログラミング講習⑦	スライドの共有方法（PDF、オンライン共有など）。動画やオーディオの挿入。カスタムスライドショーの作成。		
9	PowerPoint講習⑧ プレゼンテーション作成	PowerPointによるプレゼンテーション作成		
10	PowerPoint講習⑨ プレゼンテーション発表	作成したプレゼンテーションを発表		
11	Word講習① 基本操作の習得 プログラミング講習⑧	Wordの起動と文書の保存方法。リボンメニュー（ホーム、挿入、デザインなど）の使い方。新規文書の作成と既存文書の開き方。		
12	Word講習② 文字入力と編集 プログラミング講習⑨	文字の入力、削除、コピー、ペーストの基本操作。フォントの種類、サイズ、色の変更。強調（太字、斜体、下線）や段落設定（インデントや行間）の適用。		
13	Word講習③ 文書デザインを整える プログラミング講習⑩	テーマやスタイルの設定。表や画像の挿入と配置。箇条書きや番号付きリストの作成。		
14	Word講習④ ページ設定と印刷準備 プログラミング講習⑪	ページレイアウト（余白、用紙サイズ、縦横の設定）の調整。ヘッダーとフッターの作成。印刷プレビューと印刷設定。		
15	Word講習⑤ 便利な機能を活用する プログラミング講習⑫	検索と置換の使い方。スペルチェックと文章校正。ショートカットキーやテンプレートの活用。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布 演習データ web教材		出席率 授業態度 成果データ	10.0% 40.0% 50.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報リテラシー I		柔道整復学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
Excelの基本操作とグラフ作成スキルを習得し、Hour of Codeを通じてプログラミングの基本的な考え方に触れることで、データリテラシーと論理的思考力を育む。				
授業終了時の到達目標				
Excelの基本操作を学び、データの整理やグラフ作成を実践することで、データリテラシーを習得するとともに、Hour of Codeを活用してプログラミングの基礎概念に触れることです。これにより、論理的思考力や創造力を養い、実生活や学業で役立つデジタルスキルを身につけることを目指します。				
回	テーマ	内 容		
1	Excel講習① 基本操作の習得 プログラミング講習⑬	Excelの画面構成の説明 セルの選択、入力、コピー＆ペーストの方法 ファイルの保存と開く操作		
2	Excel講習② データ入力と整理 プログラミング講習⑭	データの入力とセル書式の設定 テーブル形式でデータを整理するコツ データの並べ替えとフィルターの使い方		
3	Excel講習③ 関数と数式の基礎 プログラミング講習⑮	基本的な計算方法（足し算、引き算など） SUM、AVERAGE、COUNTなどの簡単な関数の使い方 相対参照と絶対参照の違い		
4	Excel講習④ データの可視化準備 プログラミング講習⑯	グラフ作成に適したデータ形式 不要なデータの整理方法 データ範囲の選択方法		
5	Excel講習⑤ グラフの基本作成 プログラミング講習⑰	グラフ挿入の手順 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフなど基本的な種類の説明 グラフの作成と編集の方法		
6	Excel講習⑥ グラフのカスタマイズ プログラミング講習⑱	タイトルや凡例の編集 軸ラベルやデータラベルの設定 色やデザインのカスタマイズ		
7	Excel講習⑦ 実践演習と応用 プログラミング講習⑲	実際のデータを使ったグラフ作成演習 複数データ系列を使った複雑なグラフ作成 作成したグラフの活用方法（レポートやプレゼン資料への活用）		
8	Excel講習⑧ 模擬試験			
9	シンプログラミング講習① プログラミングとは？	プログラミングの基本的な概念を紹介します。 プログラミングがどのように私たちの生活に役立っているかを例を挙げて説明。 Hour of Codeの趣旨や目的を参加者に伝える。		
10	シンプログラミング講習② シンプルなプログラムを作る	ブロックプログラミングを使って、簡単なアニメーションや動きを実現。 ScratchやBlocklyを利用して直感的に操作。		
11	シンプログラミング講習③ アルゴリズムとループの基本	アルゴリズムとは何かを具体例で説明。 ループの仕組みを学び、繰り返し処理を使ったミニゲームの作成。		
12	シンプログラミング講習④ 条件分岐の活用	「もし～なら～する」という条件分岐の考え方を習得。 簡単なクイズゲームを作成し、選択肢による結果の違いを体験。		
13	シンプログラミング講習⑤ デバッグのスキル	エラーが発生したときの対処法を学ぶ。 実際に意図的にバグを埋め込んだプログラムを修正する練習。		
14	シンプログラミング講習⑥ 自分のプロジェクトを作る	学んだ知識を使い、簡単なプログラムやゲームを自由に作成。 他の参加者とアイデアを共有して刺激を受ける。		
15	シンプログラミング講習⑦ 振り返りと次のステップ	一日の学びを振り返り、成功例を共有。 プログラミングのさらなる学習方法や無料リソースの紹介。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布 演習データ web教材		出席率 授業態度 試験結果	10.0% 40.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
デジタルツール実践Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
情報リテラシーの学習内容で十分に理解が深められなかった箇所や、未完了であった内容を補完し、学習の質を高めることを目的としています。特に、情報リテラシーの授業で生じた疑問点や理解不足が明らかになった部分について、再確認を行い、必要に応じて新たな視点や具体例を取り入れながら、より深い理解に導きます。また、復習だけでなく、新しい知識や技術を関連付けることで学びの幅を広げる機会も提供します。本授業では、受講生が主体的に疑問を解消し、自信を持って次の学びに進むことができるよう、柔軟で丁寧な指導を行います。				
授業終了時の到達目標				
情報リテラシーの学習内容で不足している部分を補い、受講生が自信を持って内容を説明できる状態を目指します。また、新たな視点や具体例を取り入れることで、深い理解と応用力を育みます。さらに、受講生が主体的に疑問を解消し、次の学びに積極的に取り組む意欲を高めることを目的としています。				
回	テ ー マ	内 容		
1	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
2	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
3	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
4	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
5	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
6	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
7	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
8	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
9	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
10	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
11	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
12	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
13	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
14	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
15	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布 演習データ web教材		出席率 授業態度 成果データ	10.0% 40.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
デジタルツール実践Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
情報リテラシーの学習内容で十分に理解が深められなかった箇所や、未完了であった内容を補完し、学習の質を高めることを目的としています。特に、情報リテラシーの授業で生じた疑問点や理解不足が明らかになった部分について、再確認を行い、必要に応じて新たな視点や具体例を取り入れながら、より深い理解に導きます。また、復習だけでなく、新しい知識や技術を関連付けることで学びの幅を広げる機会も提供します。本授業では、受講生が主体的に疑問を解消し、自信を持って次の学びに進むことができるよう、柔軟で丁寧な指導を行います。				
授業終了時の到達目標				
情報リテラシーの学習内容で不足している部分を補い、受講生が自信を持って内容を説明できる状態を目指します。また、新たな視点や具体例を取り入れることで、深い理解と応用力を育みます。さらに、受講生が主体的に疑問を解消し、次の学びに積極的に取り組む意欲を高めることを目的としています。				
回	テ ー マ	内 容		
1	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
2	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
3	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
4	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
5	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
6	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
7	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
8	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
9	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
10	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
11	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
12	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
13	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
14	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
15	情報リテラシー補完授業	情報リテラシーの補足的な学習セッション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布 演習データ web教材		出席率 授業態度 成果データ	10.0% 40.0% 50.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ栄養学		柔道整復学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
食物、人体、環境要因という栄養学の基本を総合的に学び、健康の維持・増進、そしてスポーツ選手の競技力向上に果たす栄養学の役割を十分に理解する。				
授業終了時の到達目標				
食物、人体、環境要因という栄養学の基本を総合的に学び、健康の維持・増進、そしてスポーツ選手の競技力向上に果たす栄養学の役割を十分に理解することを目指す。				
回	テーマ	内 容		
1	スポーツ栄養学1	栄養素と食品の基礎知識		
2	スポーツ栄養学2	身体の仕組み（消化）		
3	スポーツ栄養学3	身体の仕組み（食物摂取と消化・吸収・代謝）		
4	スポーツ栄養学4	身体の仕組み（身体組成）		
5	スポーツ栄養学5	エネルギー代謝（摂取エネルギーと消費エネルギー）		
6	スポーツ栄養学6	エネルギー代謝（摂取エネルギーと消費エネルギー）		
7	スポーツ栄養学7	コンディショニングのための栄養（自己管理、内臓疲労、エネルギー補給）		
8	スポーツ栄養学8	コンディショニングのための栄養（アスリートの食事、糖質の摂取、脂質の摂取）		
9	スポーツ栄養学9	コンディショニングのための栄養（タンパク質の摂取、ビタミンの摂取、サプリメント）		
10	スポーツ栄養学10	競技力向上のための栄養（水分摂取、試合での食事、減量、貧血と予防策）		
11	スポーツ栄養学11	競技力向上のための栄養（身体づくりとカルシウム摂取量、女性の身体、ドーピング）		
12	スポーツ栄養学12	世代別にみるスポーツ栄養の考え方と栄養サポート		
13	スポーツ栄養学13	健康増進と栄養		
14	スポーツ栄養学14	期末試験		
15	スポーツ栄養学15	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
スポーツ栄養学（鈴木志保子）		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ心理学		柔道整復学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
人間関係の中で生じる心理現象について広く理解し、スポーツの現場や運動指導、または施術などの臨床現場で患者との良好な関係を形成、維持するための応用的な思考を身に付ける。				
授業終了時の到達目標				
人間関係の中で生じる心理現象について広く理解し、スポーツの現場や運動指導、または施術などの臨床現場で患者との良好な関係を形成、維持するための応用的な思考を身に付けることを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1	スポーツ心理学1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	スポーツ心理学2	発達心理（発育）		
3	スポーツ心理学3	発達心理学（発育）		
4	スポーツ心理学4	学習心理（運動心理）		
5	スポーツ心理学5	学習心理（運動心理）		
6	スポーツ心理学6	動機づけ		
7	スポーツ心理学7	古典的条件づけ		
8	スポーツ心理学8	社会心理（社会的認知・行動、チームワークおよびリーダーシップ）		
9	スポーツ心理学9	健康心理（健康増進における心理と活用）		
10	スポーツ心理学10	健康心理（健康増進における心理と活用）		
11	スポーツ心理学11	スポーツ競技における心理		
12	スポーツ心理学12	スポーツ競技における心理		
13	スポーツ心理学13	メンタルトレーニング		
14	スポーツ心理学14	臨床心理（カウンセリングマインド）		
15	スポーツ心理学15	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
やさしい心理学（水田恵三）		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保健体育		柔道整復学科／1年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授業の概要				
スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになることを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1	保健体育 1	体力学総論（体力の概念、トレーニング理論）		
2	保健体育2	機能解剖（上肢）		
3	保健体育3	機能解剖（脊柱と胸郭）		
4	保健体育4	機能解剖（下肢）		
5	保健体育5	運動指導の科学（体育教育法）		
6	保健体育6	運動指導の科学（コーチング理論）		
7	保健体育7	トレーニング指導者論（運動指導論・運動処方論・運動教授論）		
8	保健体育8	トレーニング計画の立案		
9	保健体育9	筋力トレーニングのプログラム作成		
10	保健体育10	筋力トレーニングのプログラム作成		
11	保健体育11	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成		
12	保健体育12	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成		
13	保健体育13	有酸素・無酸素トレーニングの理論とプログラム作成		
14	保健体育14	有酸素・無酸素トレーニングの理論とプログラム作成		
15	保健体育15	前期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
トレーニング指導者テキスト		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
保健体育		柔道整復学科 / 1年	2025 / 後期	実 技
授 業 時 間	回 数	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	担 当 教 員
90分	15回	1単位 (45時間)	必須	講 師
授 業 の 概 要				
スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。				
授 業 終 了 時 の 到 達 目 標				
スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになることを目標とする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	保健体育16	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成		
2	保健体育17	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成		
3	保健体育18	ウォームアップ、柔軟性トレーニングの理論		
4	保健体育19	ウォームアップ、柔軟性トレーニングの理論		
5	保健体育20	特別な対象のトレーニングとプログラム		
6	保健体育21	特別な対象のトレーニングとプログラム		
7	保健体育22	傷害の受傷から復帰までのトレーニング		
8	保健体育23	傷害の受傷から復帰までのトレーニング		
9	保健体育24	トレーニング効果の測定と評価の実際		
10	保健体育25	測定データの活用とフィードバック		
11	保健体育26	トレーニングの運営		
12	保健体育27	トレーニングの運営		
13	保健体育28	運動指導のための情報収集と活用		
14	保健体育29	運動指導のための情報収集と活用		
15	保健体育30	期末試験		
教 科 書 ・ 教 材		評 価 基 準	評 価 率	そ の 他
トレーニング指導者テキスト		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
人体の正常な構造と機能を統合的に学習し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎知識を身につける。				
授業終了時の到達目標				
人体の正常な構造と機能を統合的に学習し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎知識を身につけることにある。				
回	テーマ	内 容		
1	解剖学Ⅰ	解剖学概説		
2	解剖学2	人体の区分		
3	解剖学3	骨格系総論、骨の役割ほか		
4	解剖学4	脊柱		
5	解剖学5	胸郭		
6	解剖学6	上肢骨		
7	解剖学7	上肢の関節		
8	解剖学8	下肢骨		
9	解剖学9	下肢の関節		
10	解剖学10	頭蓋		
11	解剖学11	頭蓋		
12	解剖学12	筋系 骨格筋（起始・停止・作用ほか）		
13	解剖学13	頭部の筋		
14	解剖学14	頭部の筋		
15	解剖学15	前期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 解剖学		中間試験 期末試験	50.0% 50.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格と

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
人体の正常な構造と機能を統合的に学習し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎知識を身につける。				
授業終了時の到達目標				
人体の正常な構造と機能を統合的に学習し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎知識を身につけることにある。				
回	テーマ	内 容		
1	解剖学16	胸部の筋		
2	解剖学17	呼吸運動		
3	解剖学18	腹部の筋		
4	解剖学19	背部の筋		
5	解剖学20	上肢の筋		
6	解剖学21	上肢の筋		
7	解剖学22	下肢の筋		
8	解剖学23	下肢の筋		
9	解剖学24	内分泌系の働き		
10	解剖学25	内分泌系の働き		
11	解剖学26	内分泌系の働き		
12	解剖学27	神経系の基礎		
13	解剖学28	脳		
14	解剖学29	脳		
15	解剖学30	後期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 解剖学		中間試験 期末試験	50.0% 50.0%	・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格と

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅱ		柔道整復学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
柔道整復師となるにあたって必要な解剖学、すなわち人体の構造の知識を得ることを目的とする。十分な演習を通じ知識の定着を計る。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師となるにあたって必要な解剖学の知識を得ることを目的とする。十分な演習を通じ知識の定着を計る。国家試験に対応できる力を2年生のうちから養うことを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1	解剖学概論	細胞小器官 DNA RNA		
2	骨	骨学		
3	筋	筋学		
4	呼吸器系	肺 気管支 呼吸の仕組み		
5	消化器系総論	消化器系総論		
6	消化器系各論	消化器系各論		
7	脈管系総論	心臓 循環		
8	脈管系各論	主要な動脈 静脈		
9	泌尿器系総論	腎臓 尿管 膀胱		
10	泌尿器系各論	泌尿器全般		
11	生殖器総論	男性生殖器 女性生殖器		
12	内分泌系総論	内分泌系		
13	内分泌各論	ホルモンの作用		
14	期末試験	試験		
15	試験解説	まとめ 解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
解剖学 第2版 医歯薬出版				

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅲ		柔道整復学科／3年	2026／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師となるにあたって必要な解剖学、すなわち人体の構造の知識を得ることを目的とする。十分な演習を通じ知識の定着を計る。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師となるにあたって必要な解剖学の知識を得ることを目的とする。十分な演習を通じ知識の定着を計る。国家試験に対応できる力を2年生のうちから養うことを目標とする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	神経総論	神経総論 中枢神経 ニューロン		
2	神経各論	神経各論 末梢神経		
3	骨学演習	骨学		
4	筋学演習	筋学		
5	呼吸器演習	呼吸器		
6	消化器演習	消化器		
7	泌尿器演習	泌尿器		
8	生殖器演習	生殖器		
9	内分泌演習 1	内分泌器		
10	内分泌演習 2	ホルモンの役割		
11	神経演習 1	中枢神経		
12	神経演習 2	末梢神経		
13	まとめ	復習		
14	期末試験	試験		
15	解説	試験解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
解剖学 第2版 医歯薬出版				

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学 I		柔道整復学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
生体（人体）の各系統における基本的な機能を理解する。 授業進行に応じて、適宜中間試験を実施する				
授業終了時の到達目標				
生体（人体）の各系統における基本的な機能を説明できるようになること。				
回	テーマ	内 容		
1	生理学とは－1	細胞の構造と機能		
2	生理学とは－2	組織・器官と生体の機能系		
3	生理学とは－3	生体の恒常性と統合機能		
4	生理学とは－4	体液の区分と組成		
5	骨格筋－1	骨格筋の構造、収縮と弛緩		
6	骨格筋－2	骨格筋と張力の関係、筋電図		
7	心筋	心筋の構造と性質		
8	平滑筋	平滑筋の構造と性質		
9	神経の生理－1	神経信号の伝達		
10	神経の生理－2	神経系の構成		
11	神経の生理－3	脳の高次機能		
12	神経の生理－4	内臓機能の調節		
13	運動の生理－1	運動の調節		
14	運動の生理－2	運動神経と運動単位		
15	運動の生理－3	脊髄による反射とその調節		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
生理学（南江堂）		中間試験 期末試験 授業態度	25.0% 50.0% 25.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学Ⅰ		柔道整復学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
生体(人体)の各系統における基本的な機能を理解する。 授業進行に応じて、適宜中間試験を実施する				
授業終了時の到達目標				
柔道整復学の理論を正しく理解し根拠に基づいた実践を行うため、人体の各器官がどのような機能を持ち、どのような役割分担をしているか、また、どのように統合されているかを学習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	生理学 1	消化器系の働き		
2	生理学2	消化器の運動とその調節		
3	生理学3	消化液の分泌機序		
4	生理学4	消化・吸収		
5	生理学5	消化管とホルモン 1		
6	生理学6	消化管とホルモン 2		
7	生理学7	栄養と代謝		
8	生理学8	呼吸器の機能的構造		
9	生理学9	ガス交換		
10	生理学10	呼吸調節		
11	生理学11	呼吸の異常		
12	生理学12	体温とその調節1		
13	生理学13	体温とその調節2		
14	生理学14	総復習		
15	生理学15	後期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 生理学		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・授業への出席が3分の2以上を満した者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学Ⅱ		柔道整復学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	
授業の概要				
生体（人体）の各系統における基本的な機能を理解する。 授業進行に応じて、適宜中間試験を実施する。				
授業終了時の到達目標				
生体（人体）の各系統における基本的な機能を説明できるようになること。				
回	テーマ	内 容		
1	内分泌	内分泌腺とホルモン		
2	内分泌	ホルモンによる内部環境の恒常性維持		
3	生殖	性分化 男性生殖器		
4	生殖	女性生殖器 妊娠と分娩		
5	血液	血液の成分と組成		
6	血液	止血 血液型 免疫		
7	骨の生理	骨の構造 骨の成長		
8	循環	心臓 血管 リンパ 循環調節		
9	呼吸の生理	呼吸器系の構造 換気		
10	呼吸の生理	ガス交換と運搬 呼吸周期と構造		
11	尿の生成と排泄	腎臓の構造と機能 尿の生成		
12	尿の生成と排泄	腎血流量 排尿 腎臓による体液の調節		
13	栄養と代謝	生体に必要な栄養素 エネルギー代謝		
14	栄養と代謝	栄養素の代謝 食物と栄養		
15	期末試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
生理学 改訂第4版 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 波末一之編集 南江堂				

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
一般臨床医学		柔道整復学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
臨床の場で必要とされる、医療面接を含んだ診察の仕方について診断する。またそこから得られる情報を的確に分析して、診断・診察に活かすことを旨とする。臓器別に系統的に疾患についての基本的習得する。その上で症候学についても学習し、臨床症状から得られた情報をもとに鑑別疾患を挙げるなど、実際の診察に則したを経験を積む。				
授業終了時の到達目標				
一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを、臨床の場において多い代表的な疾患について学習し、理解することを目指す。				
回	テーマ	内 容		
1	ガイダンス	授業全体の流れ・評価方法を理解し、学習のモチベーションを高める。		
2	診察の意義と進め方	患者との初期対応で何を確認し、どのように進めるかを理解する。		
3	医療面接	信頼関係構築の重要性と、適切な質問技法を身につける。		
4	視診①：指針の意義と方法	“見る”だけで得られる情報の多さと観察力の重要性を学ぶ。		
5	視診②：異常運動	動作観察から疾患の可能性を推測する力を養う。		
6	視診③：頸部の視診	頸部に特化した観察ポイントと注意点を学ぶ。		
7	打診	音の違いから内臓の状態を把握する基礎技術を習得。		
8	聴診	心音・呼吸音の正常と異常を聞き分ける練習を行う。		
9	生命徴候（バイタル）	基本バイタルサインの測定と臨床的意義を理解。		
10	感覚検査	末梢神経系の評価法を実践的に学ぶ。		
11	反射検査	神経系機能の確認方法としての反射を理解。		
12	代表的な臨床症状①	疾患ごとにみられる典型的な症状を整理する。		
13	代表的な臨床症状②	見落としやすい症状も含めて幅広く学ぶ。		
14	検査法	臨床判断に必要な検査の種類と解釈の基本を理解。		
15	前期期末試験	学んだ前半の知識を確認し、理解を定着させる。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
一般臨床医学		柔道整復学科／2年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
臨床の場で必要とされる、医療面接を含んだ診察の仕方について診断する。またそこから得られる情報を的確に分析して、診断・診察に活かすことを旨とする。臓器別に系統的に疾患についての基本的習得する。その上で症候学についても学習し、臨床症状から得られた情報をもとに鑑別疾患を挙げるなど、実際の診察に則したを経験を積む。				
授業終了時の到達目標				
一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを、臨床の場において多い代表的な疾患について学習し、理解することを目指す。				
回	テーマ	内 容		
1	呼吸器疾患①	よく見られる呼吸器疾患とその対応法を理解する。		
2	呼吸器疾患②（応用）	実際の症例を通して知識の応用力を高める。		
3	循環器疾患①	心疾患の基礎と症状、注意すべき兆候を学ぶ。		
4	循環器疾患②	緊急時対応や検査との関連性を強化。		
5	消化器疾患	腹部の評価や関連症状の理解を深める。		
6	代謝疾患	代謝異常の特徴を学ぶ。		
7	内分泌疾患	ホルモン異常による全身への影響を理解。		
8	血液・造血器疾患	貧血や白血病など、柔整業務で遭遇する可能性のある疾患を確認。		
9	腎・尿路疾患	むくみや排尿異常から病態を見抜く視点を養う。		
10	神経疾患	麻痺やしびれの評価から疾患を推測する力を身につける。		
11	感染症	感染症の基本と医療従事者としての予防意識を高める。		
12	リウマチ・膠原病・アレルギー	自己免疫性疾患とアレルギーの見極めを学ぶ。		
13	環境・生活習慣病とその予防	「予防医学」の視点を持つ。		
14	後期まとめ	復習ポイントを解説		
15	後期期末試験	全体の理解度を評価し、今後の学びに繋げる。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格と

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動学		柔道整復学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
初学者を対象とした、運動学全般を講義する。講義の受講前に関連項目（特に解剖学、生理学の知識の復習となる項目がある）の復習や、高校で物理学を学んだ人は第3章において基礎知識が必要となるので、その準備をしておくのが望ましい。内容は多岐にわたるので毎回の予習・復習、特に復習は欠かさないでほしいです。				
授業終了時の到達目標				
運動とは何か、また運動が起こるまでの運動系や神経系の働きなどを理解し、その基本となる姿勢・歩行や人間の成長・発達について理解する。また、骨格筋の運動に関する知識を再認識する。これらが臨床科目に応用でき、国家試験に役立つ知識として整理し、使えるようになることを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1	第1章および第2章、第3章一部	運動学とは何か、また運動学を学ぶにあたって必要な事項である1・2章の解説を行う。		
2	第3章	運動について、物理学（力学）的アプローチについて詳述する。高校物理の復習を事前にしてほしい。		
3	第4章	運動の基本となる運動器系（骨・筋系）について解剖・生理学的内容を復習しながら詳述する。		
4	第5章および第6章	運動学の理解に必要な神経系・感覚器系について解剖・生理学的内容を復習しながら詳述する。		
5	第7章反射と随意運動①	反射についての基礎を生理学の復習をしながら詳述する。		
6	第7章反射と随意運動②	反射についてと随意運動について運動プログラムや小脳の働きなどを中心に解説する。		
7	第9章姿勢	運動の前提となる姿勢の重要性とその基本について解説する。		
8	第10章歩行①	歩行の基本的事項（歩行周期など）について解説する。		
9	第10章歩行②	歩行に関して、使用する筋や歩行を開始するまでの神経系や運動系の機能について詳述する。		
10	第11章運動発達、第12章運動学習	運動系の発達について、発生を復習しながら詳述する。また、運動の学習についても説明する。		
11	第8章体幹と四肢の運動①	主に上肢の筋、関節の復習とその運動について詳述する。8章は時間の制約上、復習を確実に行ってほしい。		
12	第8章体幹と四肢の運動②	主に下肢の筋、関節の復習とその運動について詳述する。		
13	第8章体幹と四肢の運動③	主に背部、腹部の筋、関節とその運動について詳述する。また、呼吸についても復習する。		
14	第8章体幹と四肢の運動④	主に頭部の筋について詳述する。		
15	定期試験および試験解説	定期試験を実施し、終了後にその解説も行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
運動学（改訂3版 医歯薬出版） また、テキストをまとめた資料を毎回配布する。		定期試験	100.0%	出欠状況などを考慮する場合もある。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
病理学概論		柔道整復学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
初学者を対象とした、病理学全般を講義する。講義の受講前に関連項目（主に解剖学、生理学、病因論など一部に衛生学・公衆衛生学の知識がある方が望ましい）の予習・復習をしておいてほしい。内容は多岐にわたるので毎回の予習・復習、特に復習は欠かさないでほしいです。				
授業終了時の到達目標				
病気が起こる原因とその病態を理解し、主な病名などを覚えていく。これらを臨床科目や国家試験に役立つ知識として整理し、使えるようになることを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1	第1章および第2章	病理学とは何か、また病理学を学ぶために必要な事項が盛り込まれている1・2章について解説する。		
2	第3章①	退行性病変の萎縮や変性を中心に解説する。		
3	第3章②	代謝障害（鉄、色素など）について解説する。		
4	第4章循環障害	循環障害のうち、充血とうっ血、虚血や出血の分類などについて解説する。		
5	第4章循環障害の一部と第5章	循環障害の後半（血栓や梗塞など）と進行性病変（再生、化生、創傷治癒など）について解説する。		
6	第6章炎症	炎症の四大徴候からはじまり、特に急性炎症の過程を中心に解説する。		
7	第6章炎症の一部と第7章免疫異常とアレルギーの前半	炎症の慢性炎症などを解説後、免疫異常（先天性・後天性）について解説する。		
8	第7章免疫異常とアレルギーの後半	自己免疫疾患および膠原病とアレルギー（I型からV型までの分類）について解説する。		
9	第8章腫瘍①	腫瘍の基本（良性と悪性の区分およびその特徴など）について解説する。		
10	第8章腫瘍②	腫瘍について、上皮性・非上皮性の区分や部位別の腫瘍について解説する。		
11	第9章先天性異常	先天性異常の疾患と奇形について解説する。		
12	第10章病因①	病因の分類（外因と内因など）の解説後、内因と外因の一部（物理的病因の一部まで）を詳述する。		
13	第10章病因②	物理的外因と化学的、生物学的要因について詳述する。		
14	試験対策問題演習	全章の過去の国家試験問題を利用し、演習を行うことで理解を深める。		
15	定期試験および試験解説	定期試験を実施し、終了後にその解説も行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病理学概論（改訂3版 医歯薬出版） また、テキストをまとめた資料を毎回配布する。		定期試験	100.0%	出欠状況などを考慮する場合もある。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
整形外科		柔道整復学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
運動器の正常な機能を学び、病的状態を知ることによって柔道整復師として適切に判断・治療できることを目指す。臨床実習も交えながら進行する。				
授業終了時の到達目標				
運動器の基礎知識と診察法、種々の検査法、治療法、スポーツ整形外科、リハビリテーションならびに各疾患別各論と身体部位別疾患について整形外科領域の専門的知識の修得を目的とする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	整形外科総論 1	運動器の基礎知識		
2	整形外科総論2	整形外科診察法		
3	整形外科総論3	整形外科検査法・整形外科的治療		
4	整形外科総論4	骨・関節損傷総論		
5	リハビリテーション総論・スポーツ整形外科総論	外傷と障害		
6	疾患別各論	感染性疾患		
7	疾患別各論	軟部腫瘍・軟部疾患		
8	疾患別各論	全身性の骨・骨端症		
9	疾患別各論	神経麻痺と絞扼性神経障害		
10	身体部位別各論	頸部・胸部		
11	身体部位別各論	肩甲骨帯および上肢の疾患		
12	身体部位別各論	上腕・肘関節・前腕・手・手指		
13	身体部位別各論	骨盤・股関節・大腿		
14	身体部位別各論	膝関節・下腿・足関節・足・足趾		
15	期末試験	試験実施・解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 整形外科		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
外科学概論		柔道整復学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
外科学の概論を学び、医学における外科学の内容について理解を深めます。講義方法は、柔道整復師国家試験における外科学概論部分からの出題と教科書の内容を照らし合わせ、内容の理解を正答ができること目指す。				
授業終了時の到達目標				
外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常の臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を学ぶ。さらに実用的な内容にも触れ適切な治療ができるような知識を身につける				
回	テーマ	内 容		
1	外科学 1	損傷の分類		
2	外科学2	創傷の処置と感染予防・熱傷 原因と分類		
3	外科学3	炎症・外科感染症		
4	外科学4	腫瘍 概念・悪性腫瘍の種類		
5	外科学5	症状・診断・治療		
6	外科学6	循環血液量異常によるショック		
7	外科学7	輸血・一般輸液・高カロリー輸液		
8	外科学8	手術の準備・主な消毒薬と特徴		
9	外科学9	麻酔 概要・全身麻酔の手技		
10	外科学10	移植の用語		
11	外科学11	出血と止血 救急処置（止血・心肺蘇生法の手順）		
12	外科学12	脳神経外科疾患・甲状腺・頸部疾患		
13	外科学13	心臓・脈管疾患		
14	外科学14	腹部外科疾患・乳腺疾患		
15	外科学15	後期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 外科学概論		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が3分の2以上を満した者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション医学		柔道整復学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師の日常業務に必要な知識及び国家試験対策を中心とした授業を展開する。過去の国家試験出題実績から予想される国家試験問題に回答できる知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
患者の持つあらゆる障害に対処していかなければならないリハビリテーション医学は、その需要がさらに広がっている。広い知識を身に付け社会の要請に応じられるような知識の修得を目指す				
回	テ ー マ	内 容		
1	リハビリテーション医学の基礎医学	運動学と機能解剖		
2	リハビリテーション医学の基礎医学	障害学・治療学		
3	リハビリテーション医学の評価と診断	患者のとらえ方・身体計測		
4	リハビリテーション医学の評価と診断	中枢性運動障害の評価法		
5	リハビリテーション医学の評価と診断	協調性テスト・日常生活動作の評価		
6	リハビリテーションの治療	理学療法・補装具・言語治療		
7	リハビリテーションの実際	脳卒中		
8	リハビリテーションの実際	脊髄損傷		
9	リハビリテーションの実際	小児疾患		
10	リハビリテーションの実際	切断・末梢神経損傷		
11	リハビリテーションの実際	関節リウマチ・整形外科疾患		
12	リハビリテーションの実際	心疾患・呼吸器疾患		
13	リハビリテーションの実際	アスレティックリハビリテーション		
14	リハビリテーションと福祉	老人のリハビリテーション		
15	後期期末試験	試験実施・解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 リハビリテーション医学 その他プリントなど		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

作成者:

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔道整復術の適応		柔道整復学科／3年	2026／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	
授業の概要				
柔道整復術の適応と非適応を知り医師との連携を考えることが出来るようにすることを目的とする				
授業終了時の到達目標				
整形外科や一般臨床医学また、外科学等の教科が、関連することを理解し臨床に応用とすることをめざす。				
回	テーマ	内 容		
1	柔道整復術の適応	医療面接		
2	柔道整復術の適応	診察		
3	柔道整復術の適応	診察		
4	柔道整復術の適応	診察		
5	柔道整復術の適応	診察		
6	柔道整復術の適応	画像診断		
7	柔道整復術の適応	画像診断		
8	柔道整復術の適応	画像診断		
9	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応		
10	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応		
11	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応		
12	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応		
13	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応		
14	柔道整復術の適応	期末試験		
15	柔道整復術の適応	解答 解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
柔道整復学の適応				

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会保障制度		柔道整復学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
社会保障制度近年、医療保険制度改革を始め、柔道整復師を取り巻く環境やしぐみは大きく変化している。そのため社会保障制度のなかでも柔道整復師に必要な、皆保険制度、療養費の支給について学ぶ				
授業終了時の到達目標				
社会保障制度近年、医療保険制度改革を始め、柔道整復師を取り巻く環境やしぐみは大きく変化している。そのため社会保障制度のなかでも柔道整復師に必要な、皆保険制度、療養費の支給について学ぶことを目標とする				
回	テ ー マ	内 容		
1	社会保障制度 1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明。国民皆保険制度		
2	社会保障制度 2	国民皆保険制度		
3	社会保障制度 3	国民皆保険制度		
4	社会保障制度 4	療養費の支給 柔道整復師の施術 沿革		
5	社会保障制度 5	療養費の支給 柔道整復師の施術 支給対象		
6	社会保障制度 6	療養費の支給 柔道整復師の施術 算定基準の実施上の留意事項		
7	社会保障制度 7	療養費の支給 柔道整復師の施術 算定基準の実施上の留意事項		
8	社会保障制度 8	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 期末試験	20.0% 80.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学・衛生学		柔道整復学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
医療と保健衛生との関わり、生活において健康とは何かを学習する。				
授業終了時の到達目標				
医療と保健衛生との関わり、生活において健康とは何かを学ぶことを目標とする				
回	テ ー マ	内 容		
1	公衆衛生学・衛生学1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動		
2	公衆衛生学・衛生学2	健康の概念		
3	公衆衛生学・衛生学3	健康の概念		
4	公衆衛生学・衛生学4	疾病予防と健康管理		
5	公衆衛生学・衛生学5	感染症の予防		
6	公衆衛生学・衛生学6	感染症の予防		
7	公衆衛生学・衛生学7	消毒		
8	公衆衛生学・衛生学8	消毒		
9	公衆衛生学・衛生学9	環境保健		
10	公衆衛生学・衛生学10	環境保健		
11	公衆衛生学・衛生学11	母子保健		
12	公衆衛生学・衛生学12	学校保健		
13	公衆衛生学・衛生学13	産業保健		
14	公衆衛生学・衛生学14	産業保健		
15	公衆衛生学・衛生学15	前期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 衛生学・公衆衛生学		期末試験	100.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学・衛生学		柔道整復学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
言動や行動に医療従事者としての自覚を持つことが大切である。職業倫理を理解することにより、授業の中でプロフェッショナルの倫理観を学び、ケース別の対応についてディスカッションを通して他社の気持ちを理解し、適切な対応方法を見つけて行く。				
授業終了時の到達目標				
医療と保健衛生との関わり、生活において健康とは何かを学ぶことを目標とする				
回	テ ー マ	内 容		
1	公衆衛生学・衛生学16	成人・老人保健		
2	公衆衛生学・衛生学17	成人・老人保健		
3	公衆衛生学・衛生学18	精神保健		
4	公衆衛生学・衛生学19	生活環境・食品衛生活動		
5	公衆衛生学・衛生学20	生活環境・食品衛生活動		
6	公衆衛生学・衛生学21	生活環境・食品衛生活動		
7	公衆衛生学・衛生学22	地域保健と国際保健		
8	公衆衛生学・衛生学23	地域保健と国際保健		
9	公衆衛生学・衛生学24	衛生行政と保健医療の制度		
10	公衆衛生学・衛生学25	衛生行政と保健医療の制度		
11	公衆衛生学・衛生学26	疫学		
12	公衆衛生学・衛生学27	疫学		
13	公衆衛生学・衛生学28	疫学		
14	公衆衛生学・衛生学29	疫学		
15	公衆衛生学・衛生学30	後期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 衛生学・公衆衛生学		期末試験	100.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格と

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
職業倫理		柔道整復学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
言動や行動に医療従事者としての自覚を持つことが大切である。職業倫理を理解することにより、授業の中でプロフェッショナルの倫理観を学び、ケース別の対応についてディスカッションを通して他社の気持ちを理解し、適切な対応方法を見つけて行く。				
授業終了時の到達目標				
上記を果たすために必要とされる行動の規範や基準を学ぶ				
回	テ ー マ	内 容		
1	医療従事者の職業倫理	職業倫理とは		
2	基本的倫理観と患者への対応	患者への説明 守秘義務		
3	社会的責任と対応	医療契約		
4	社会的責任と対応	医療事故		
5	社会的責任と対応	暴言 暴行		
6	社会的責任と対応	施術料未払い		
7	グループ・ディスカッション	事例		
8	医療における情報と責任	個人情報保護に関する法律		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版株式会社				

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔道実技Ⅰ		柔道整備学科／1年	2025／後期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整備師として柔道を正しく理解するために、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。				
授業終了時の到達目標				
柔道整備師として柔道を正しく理解するために、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習することを目的とする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	柔道実技1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明、柔道の歴史		
2	柔道実技2	横受身、後受身、横受身、前受身、前方回転受身		
3	柔道実技3	礼法（立礼・座礼） 打込		
4	柔道実技4	打込、固技、投技		
5	柔道実技5	打込、固技、投技		
6	柔道実技6	浮落		
7	柔道実技7	背負投		
8	柔道実技8	肩車		
9	柔道実技9	浮腰		
10	柔道実技10	払腰		
11	柔道実技11	釣込腰		
12	柔道実技12	送足払		
13	柔道実技13	支釣込足		
14	柔道実技14	総復習		
15	柔道実技15	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・授業への出席が5分の4以上を満した者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし C以上を合格と

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔道実技Ⅱ		柔道整備学科／2年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授業の概要				
柔道整備師として柔道を正しく理解するために、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。				
授業終了時の到達目標				
柔道整備師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。				
回	テーマ	内 容		
1	柔道 1	内股		
2	柔道2	浮落 投込		
3	柔道3	浮落 投込		
4	柔道4	肩車 投込		
5	柔道5 5	浮腰 投込		
6	柔道6	払腰 投込		
7	柔道7	釣込腰 投込		
8	柔道8	送足払 投込		
9	柔道9	支釣込足 投込		
10	柔道10	内股 投込		
11	柔道11	復習		
12	柔道12	約束乱取		
13	柔道13	約束乱取		
14	柔道14	袈裟固めなど		
15	柔道15	前期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が5分の4以上を満した者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔道実技Ⅱ		柔道整復学科／2年	2025／後期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師として柔道を正しく理解するために、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	柔道16	投の形、約束乱取		
2	柔道17	投の形、約束乱取		
3	柔道18	投の形、約束乱取		
4	柔道19	投の形、約束乱取		
5	柔道20	投の形、約束乱取		
6	柔道21	投の形、約束乱取		
7	柔道22	投の形、約束乱取		
8	柔道23	投の形、約束乱取		
9	柔道24	投の形、約束乱取		
10	柔道25	投の形、約束乱取		
11	柔道26	投の形、約束乱取		
12	柔道27	投の形、約束乱取		
13	柔道28	投の形、約束乱取		
14	柔道29	投の形、約束乱取		
15	柔道30	後期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・ 授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格と

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔道実技Ⅲ		柔道整復学科／3年	2026／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（45時間）	必須	大久保 博臣
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
関係法規		柔道整復学科／3年	2026／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師の業務の中で最も重要な骨の損傷の基礎を学ぶ、また関節可動域測定を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師の業務の中で最も重要な骨の損傷の基礎を学ぶ、また関節可動域測定を学ぶことを目的とする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	基礎柔道整復学Ⅰ 1	骨の形態と機能		
2	基礎柔道整復学Ⅰ 2	骨損傷の分類		
3	基礎柔道整復学Ⅰ 3	骨折の症状		
4	基礎柔道整復学Ⅰ 4	骨折の合併症		
5	基礎柔道整復学Ⅰ 5	小児骨折		
6	基礎柔道整復学Ⅰ 6	高齢者骨折の特徴		
7	基礎柔道整復学Ⅰ 7	骨折の癒合日数		
8	基礎柔道整復学Ⅰ 8	骨の治癒課程		
9	基礎柔道整復学Ⅰ 9	骨折治癒に影響を与える因子		
10	基礎柔道整復学Ⅰ 10	骨折の治療法 整復法		
11	基礎柔道整復学Ⅰ 11	整復法の分類		
12	基礎柔道整復学Ⅰ 12	骨折の固定法		
13	基礎柔道整復学Ⅰ 13	固定法に用いる材料		
14	基礎柔道整復学Ⅰ 14	まとめ		
15	基礎柔道整復学Ⅰ 15	前期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）		出席率 授業態度 期末試験	0.0% 0.0% 100.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格と

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師の業務の中で最も重要な骨の損傷の基礎を学ぶ、また関節可動域測定を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師の業務の中で最も重要な骨の損傷の基礎を学ぶ、また関節可動域測定を学ぶことを目的とする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	基礎柔道整復学Ⅰ 16	関節可動域ならびに測定法		
2	基礎柔道整復学Ⅰ 17	関節可動域ならびに測定法		
3	基礎柔道整復学Ⅰ 18	関節可動域ならびに測定法		
4	基礎柔道整復学Ⅰ 19	関節可動域ならびに測定法		
5	基礎柔道整復学Ⅰ 20	関節可動域ならびに測定法		
6	基礎柔道整復学Ⅰ 21	関節可動域ならびに測定法		
7	基礎柔道整復学Ⅰ 22	関節可動域ならびに測定法		
8	基礎柔道整復学Ⅰ 23	関節可動域ならびに測定法		
9	基礎柔道整復学Ⅰ 24	徒手検査法の意義		
10	基礎柔道整復学Ⅰ 25	徒手検査法の注意		
11	基礎柔道整復学Ⅰ 26	痛みの科学と臨床骨折の疼痛		
12	基礎柔道整復学Ⅰ 27	痛みの科学と臨床骨折の疼痛		
13	基礎柔道整復学Ⅰ 28	痛みの科学と臨床軟部組織損傷の疼痛		
14	基礎柔道整復学Ⅰ 29	痛みの科学と臨床		
15	基礎柔道整復学Ⅰ 30	後期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）		出席率 授業態度 期末試験	0.0% 0.0% 100.0%	・ 授業への出席が3分の2以上を満した者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格と

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅱ		柔道整復学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授業の概要				
柔道整復師の業務範囲である脱臼と関節の損傷の基礎を学ぶ、また体幹の損傷顎関節損傷を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師の業務範囲である脱臼と関節の損傷の基礎を学ぶ、また体幹の損傷顎関節損傷を学ぶことを目的とする。				
回	テーマ	内 容		
1	基礎柔道清風学Ⅱ 1	関節の概要構造		
2	基礎柔道清風学Ⅱ 2	関節の種類		
3	基礎柔道清風学Ⅱ 3	関節の損傷：関節の構造と形態		
4	基礎柔道清風学Ⅱ 4	関節の損傷：関節の構造と形態		
5	基礎柔道清風学Ⅱ 5	関節の損傷：関節損傷の概説		
6	基礎柔道清風学Ⅱ 6	関節の損傷：関節損傷の概説		
7	基礎柔道清風学Ⅱ 7	関節の損傷：関節構成組織損傷		
8	基礎柔道清風学Ⅱ 8	関節の損傷：関節構成組織損傷		
9	基礎柔道清風学Ⅱ 9	関節の損傷：脱臼		
10	基礎柔道清風学Ⅱ 10	関節の損傷：脱臼		
11	基礎柔道清風学Ⅱ 11	脱臼の整復法		
12	基礎柔道清風学Ⅱ 12	脱臼の整復法		
13	基礎柔道清風学Ⅱ 13	脱臼の固定法		
14	基礎柔道清風学Ⅱ 14	脱臼の固定期間		
15	基礎柔道清風学Ⅱ 15	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)		出席率 授業態度 期末試験	0.0% 0.0% 100.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。 出席点15点＋授業態度10点＋期末試験75点満点計100点で評価する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅱ		柔道整復学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師の業務範囲である脱臼と関節の損傷の基礎を学ぶ、また体幹の損傷顎関節損傷を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師の業務範囲である脱臼と関節の損傷の基礎を学ぶ、また体幹の損傷顎関節損傷を学ぶことを目的とする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	基礎柔道清風学Ⅱ 16	顎関節脱臼分類		
2	基礎柔道清風学Ⅱ 17	顎関節脱臼特徴		
3	基礎柔道清風学Ⅱ 18	顎関節脱臼整復・固定		
4	基礎柔道清風学Ⅱ 19	顎関節脱臼と鑑別すべき外傷 顎関節症		
5	基礎柔道清風学Ⅱ 20	胸部の骨折 胸骨骨折		
6	基礎柔道清風学Ⅱ 21	胸部の骨折 胸骨骨折		
7	基礎柔道清風学Ⅱ 22	胸部の骨折 胸骨骨折と鑑別を要する疾患 胸部の軟部組織損傷		
8	基礎柔道清風学Ⅱ 23	胸部の骨折 胸骨骨折と鑑別を要する疾患 胸部の軟部組織損傷		
9	基礎柔道清風学Ⅱ 24	脊椎部の損傷 頸椎骨折		
10	基礎柔道清風学Ⅱ 25	脊椎部の損傷 胸椎・腰椎骨折		
11	基礎柔道清風学Ⅱ 26	脊椎部の損傷 脱臼		
12	基礎柔道清風学Ⅱ 27	脊椎部の損傷 軟部組織損傷腰痛を除く		
13	基礎柔道清風学Ⅱ 28	脊椎部の損傷 軟部組織損傷		
14	基礎柔道清風学Ⅱ 29	脊椎部の損傷 軟部組織損傷		
15	基礎柔道清風学Ⅱ 30	後期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)		出席率 授業態度 期末試験	0.0% 0.0% 100.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。 - 出席点15点＋授業態度10点＋期末試験75点満点計100点で評価する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅲ		柔道整復学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師の業務範囲である骨折の保存療法と脱臼と軟部損傷の基礎を学ぶ、また運動器別疾患を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
前期は学んだ柔道整復理論基礎の復習を行い知識の整理と共に深く学ぶこと（外傷保存療法の経過および治癒の判定を含む） 柔道整復術を習得するための礎となるべき基礎医学知識の構築を目指す。				
回	テ ー マ	内 容		
1	骨折	骨折の保存療法の経過および治癒の判定 1		
2	骨折	骨折の保存療法の経過および治癒の判定 2		
3	骨折	骨折の保存療法の経過および治癒の判定 3		
4	脱臼	脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定 1		
5	脱臼	脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定 2		
6	脱臼	脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定 3		
7	捻挫	捻挫の保存療法の経過および治癒の判定		
8	挫傷	挫傷の保存療法の経過および治癒の判定		
9	骨損傷	骨の損傷：骨折の合併症		
10	骨損傷	骨の損傷：小児骨折・高齢者骨折の特徴		
11	骨損傷	骨の損傷：骨折の癒合日数、骨折の予後		
12	関節損傷	関節の損傷：関節の構造と形態		
13	関節損傷	関節の損傷：関節損傷の概説		
14	関節損傷	関節の損傷：関節構成組織損傷・脱臼		
15	期末試験（前期）	試験実施・解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格と

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅲ		柔道整復学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師の業務範囲である骨折の保存療法と脱臼と軟部損傷の基礎を学ぶ、また運動器別疾患を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
前期は学んだ柔道整復理論基礎の復習を行い知識の整理と共に深く学ぶこと（外傷保存療法の経過および治癒の判定を含む） 柔道整復術を習得するための礎となるべき基礎医学知識の構築を目指す。				
回	テ ー マ	内 容		
1	柔道整復師の業務範囲	運動器と循環期の機能解剖の復習		
2	柔道整復師の業務範囲	運動器と循環器の生理機能の復習		
3	柔道整復師の業務範囲	運動器疾患と鑑別を要する心疾患の特徴を覚える。		
4	柔道整復師の業務範囲	運動器外傷と鑑別を要する脈管疾患の特徴を覚える。		
5	柔道整復師の業務範囲	運動器外傷と循環器疾患に類似する身体症状を覚える。		
6	柔道整復師の業務範囲	運動器と呼吸器の機能解剖の復習		
7	柔道整復師の業務範囲	運動器と循環器の生理機能の復習		
8	柔道整復師の業務範囲	運動器疾患と鑑別を要する気管・気管枝疾患の特徴を覚える。		
9	柔道整復師の業務範囲	運動器疾患と鑑別を要する肺疾患の特徴を覚える。		
10	柔道整復師の業務範囲	運動器外傷と呼吸器疾患に類似する身体症状を覚える。		
11	柔道整復学 総論（骨折）	骨折時の全身症状を引き起こす生理機能を理解する。		
12	柔道整復学 総論（骨折）	骨折時の全身症状を引き起こす生理機能を理解する		
13	柔道整復学 総論（脱臼）	脱臼時の全身症状を引き起こす生理機能を理解する。		
14	柔道整復学 総論（脱臼）	骨折時の身体反応の機序を説明できるようにする。		
15	期末試験（後期	試験実施・解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅳ		柔道整復学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
外傷性の運動器の損傷、柔道整復学における脈管系、内臓系、神経系の合併症を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師として外傷の治癒機序・治癒経過・合併症等について基礎医学観点から考察できることを目指す				
回	テ ー マ	内 容		
1	概説	柔道整復学における人体解剖概説①		
2	概説	柔道整復学における人体解剖概説②		
3	運動器	外傷による運動器の損傷①		
4	運動器	外傷による運動器の損傷②		
5	運動器	外傷による運動器の損傷③		
6	運動器	外傷による運動器の損傷④		
7	運動器	外傷による運動器の損傷⑤		
8	運動器	外傷による運動器の損傷⑥		
9	運動器	外傷による運動器の損傷⑦		
10	脈管系	柔道整復学における脈管系の損傷・合併症①		
11	脈管系	柔道整復学における脈管系の損傷・合併症②		
12	脈管系	柔道整復学における脈管系の損傷・合併症③		
13	脈管系	柔道整復学における脈管系の損傷・合併症④		
14	脈管系	柔道整復学における脈管系の損傷・合併症⑤		
15	期末試験（前期）	試験実施・解説・解答		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編） 解剖学		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅳ		柔道整復学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
外傷性の運動器の損傷、柔道整復学における脈管系、内臓系、神経系の合併症を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師として外傷の治癒機序・治癒経過・合併症等について基礎医学観点から考察できることを目指す				
回	テ ー マ	内 容		
1	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症①		
2	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症②		
3	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症③		
4	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症④		
5	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症⑤		
6	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症⑥		
7	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症①		
8	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症②		
9	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症③		
10	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症④		
11	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症⑤		
12	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症⑥		
13	感覚器	柔道整復学における感覚器①		
14	感覚器	柔道整復学における感覚器②		
15	期末試験（後期）	試験実施・解説・解答		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）解剖学		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅴ		柔道整復学科／3年	2026／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

回	テ ー マ	内 容		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅵ		柔道整復学科／3年	2026／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

回	テ ー マ	内 容		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復学総論を通じ、各論に繋がる骨折、脱臼、軟部組織損傷に伴う損傷の知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復学総論を通じ、各論に繋がる骨折、脱臼、軟部組織損傷に伴う損傷の知識習得を目的とする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	臨床柔道整復学Ⅰ 1	柔道整復術及び柔道整復師の沿革		
2	臨床柔道整復学Ⅰ 2	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領		
3	臨床柔道整復学Ⅰ 3	柔道整復師とは（概論）人体に加わる力		
4	臨床柔道整復学Ⅰ 4	損傷に関する身体の基礎的状态		
5	臨床柔道整復学Ⅰ 5	末梢神経の損傷：神経の構造と機能		
6	臨床柔道整復学Ⅰ 6	末梢神経の損傷：神経損傷の概説		
7	臨床柔道整復学Ⅰ 7	末梢神経の損傷：神経損傷の症状		
8	臨床柔道整復学Ⅰ 8	血管系、リンパ系の損傷：四肢血管損傷の概説		
9	臨床柔道整復学Ⅰ 9	血管系、リンパ系の損傷：血管損傷の症状		
10	臨床柔道整復学Ⅰ 10	血管系、リンパ系の損傷：血管損傷の症状		
11	臨床柔道整復学Ⅰ 11	皮膚の損傷：皮膚の形態と機能		
12	臨床柔道整復学Ⅰ 12	筋の損傷：筋の形態と機能		
13	臨床柔道整復学Ⅰ 13	筋の損傷：筋損傷の概説		
14	臨床柔道整復学Ⅰ 14	筋の損傷：筋損傷の症状		
15	臨床柔道整復学Ⅰ 15	前期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）		中間試験 期末試験 授業態度 出席率	40.0% 40.0% 10.0% 10.0%	・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復学総論を通じ、各論に繋がる骨折、脱臼、軟部組織損傷に伴う損傷の知識を習得する。				
授 業 終 了 時 の 到 達 目 標				
柔道整復学総論を通じ、各論に繋がる骨折、脱臼、軟部組織損傷に伴う損傷の知識習得を目的とする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	臨床柔道整復学Ⅰ 16		筋の損傷：筋損傷の予後	
2	臨床柔道整復学Ⅰ 17		腱の損傷：腱の構造と機能	
3	臨床柔道整復学Ⅰ 18		腱の損傷：腱損傷の概説	
4	臨床柔道整復学Ⅰ 19		腱の損傷：腱損傷の症状	
5	臨床柔道整復学Ⅰ 20		末梢神経の損傷の復習	
6	臨床柔道整復学Ⅰ 21		末梢神経の損傷の復習	
7	臨床柔道整復学Ⅰ 22		評価	
8	臨床柔道整復学Ⅰ 23		評価	
9	臨床柔道整復学Ⅰ 24		評価	
10	臨床柔道整復学Ⅰ 25		血管系・リンパ系の損傷の復習	
11	臨床柔道整復学Ⅰ 26		筋の損傷の復習	
12	臨床柔道整復学Ⅰ 27		腱の損傷の復習	
13	臨床柔道整復学Ⅰ 28		総復習	
14	臨床柔道整復学Ⅰ 29		総復習	
15	臨床柔道整復学Ⅰ 30		後期期末試験	
教科書・教材			評価基準	評価率
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)			中間試験 期末試験 授業態度 出席率	40.0% 40.0% 10.0% 10.0%
				・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。 ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
臨床柔道整復学Ⅱ		柔道整復学科 / 2年	2025 / 前期	講義
授 業 時 間	回 数	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	担 当 教 員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	講師
授 業 の 概 要				
指導管理と最も多く遭遇する捻挫・挫傷など軟部組織損傷を学ぶ 頭蓋骨骨折や胸部の骨折を学ぶ				
授 業 終 了 時 の 到 達 目 標				
指導管理と最も多く遭遇する捻挫・挫傷など軟部組織損傷、及び頭蓋骨骨折や胸部の骨折を学ぶことを目標とする				
回	テ ー マ	内 容		
1	臨床柔道整復学Ⅱ 1	患者環境の把握		
2	臨床柔道整復学Ⅱ 2	住宅環境に対する指導		
3	臨床柔道整復学Ⅱ 3	就労環境・就学環境・スポーツ活動に関する指導管理		
4	臨床柔道整復学Ⅱ 4	整復に対する指導管理		
5	臨床柔道整復学Ⅱ 5	固定に関する指導管理		
6	臨床柔道整復学Ⅱ 6	固定後の指導管理		
7	臨床柔道整復学Ⅱ 7	固定具の指導管理		
8	臨床柔道整復学Ⅱ 8	後療法に関する指導管理		
9	臨床柔道整復学Ⅱ 9	後療法に関する指導管理		
10	臨床柔道整復学Ⅱ 10	自己管理に関する指導		
11	臨床柔道整復学Ⅱ 11	総復習		
12	臨床柔道整復学Ⅱ 12	前期末試験		
13	臨床柔道整復学Ⅱ 13	解答・解説		
14	臨床柔道整復学Ⅱ 14	捻挫・挫傷の概要		
15	臨床柔道整復学Ⅱ 15	捻挫に合併する損傷		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
柔道整復学・理論(南江堂)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
臨床柔道整復学Ⅱ		柔道整復学科 / 2年	2025 / 後期	講義
授 業 時 間	回 数	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	担 当 教 員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	講師
授 業 の 概 要				
指導管理と最も多く遭遇する捻挫・挫傷など軟部組織損傷を学ぶ 頭蓋骨骨折や胸部の骨折を学ぶ				
授 業 終 了 時 の 到 達 目 標				
指導管理と最も多く遭遇する捻挫・挫傷など軟部組織損傷、及び頭蓋骨骨折や胸部の骨折を学ぶことを目標とする				
回	テ ー マ	内 容		
1	臨床柔道整復学Ⅱ 16	挫傷に合併する損傷		
2	臨床柔道整復学Ⅱ 17	捻挫に対する柔道整復術の適応		
3	臨床柔道整復学Ⅱ 18	捻挫に対する柔道整復術の適応		
4	臨床柔道整復学Ⅱ 19	捻挫に対する柔道整復術の適応		
5	臨床柔道整復学Ⅱ 20	捻挫に対する柔道整復学の適応		
6	臨床柔道整復学Ⅱ 21	捻挫・挫傷の固定		
7	臨床柔道整復学Ⅱ 22	捻挫・挫傷の固定		
8	臨床柔道整復学Ⅱ 23	捻挫・挫傷の固定		
9	臨床柔道整復学Ⅱ 24	顔面部の骨折・頭蓋骨骨折		
10	臨床柔道整復学Ⅱ 25	胸部の骨折・肋骨骨折		
11	臨床柔道整復学Ⅱ 26	胸部の骨折・肋骨骨折		
12	臨床柔道整復学Ⅱ 27	胸部の骨折・胸骨骨折		
13	臨床柔道整復学Ⅱ 28	総復習		
14	臨床柔道整復学Ⅱ 29	後期末試験		
15	臨床柔道整復学Ⅱ 30	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
柔道整復学・理論(南江堂)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅲ		柔道整復学科／3年	2026／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

回	テ ー マ	内 容		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅳ		柔道整復学科／3年	2026／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	
授 業 の 概 要				
講義				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師として外傷の治癒機序・治癒経過・合併症等について基礎医学観点から考察できることを目指す				
回	テ ー マ	内 容		
1	概説	1		
2	概説	柔道整復学における人体解剖概説②		
3	運動器	外傷による運動器の損傷①		
4	運動器	外傷による運動器の損傷②		
5	運動器	外傷による運動器の損傷③		
6	運動器	外傷による運動器の損傷④		
7	運動器	外傷による運動器の損傷⑤		
8	運動器	外傷による運動器の損傷⑥		
9	運動器	外傷による運動器の損傷⑦		
10	脈管系	柔道整復学における脈管系の損傷・合併症①		
11	脈管系	柔道整復学における脈管系の損傷・合併症②		
12	脈管系	柔道整復学における脈管系の損傷・合併症③		
13	脈管系	柔道整復学における脈管系の損傷・合併症④		
14	脈管系	柔道整復学における脈管系の損傷・合併症⑤		
15	期末試験（前期	試験実施・解説・解答		

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
16	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症①		
17	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症②		
18	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症③		
19	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症④		
20	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症⑤		
21	内臓系	柔道整復学における内臓系の損傷・合併症⑥		
22	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症①		
23	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症②		
24	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症③		
25	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症④		
26	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症⑤		
27	神経系	柔道整復学における神経系疾患・合併症⑥		
28	感覚器	柔道整復学における感覚器①		
29	感覚器	柔道整復学における感覚器②		
30	後期定期試験	試験実施・解説・解答		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編） 解剖学		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅴ		柔道整復学科／3年	2026／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

回	テ ー マ	内 容		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅵ		柔道整復学科／3年	2026／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

回	テ ー マ	内 容		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎実技Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授業の概要				
柔道整復師は、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を行う。ギプスも行う。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師は、緩まず確実かつ合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を目的とする。				
回	テーマ	内 容		
1	基礎実技Ⅰ 1	固定の目的		
2	基礎実技Ⅰ 2	固定材料の種類（硬性材料・軟性材料）		
3	基礎実技Ⅰ 3	包帯の巻き方の基礎・巻軸帯の巻き戻し		
4	基礎実技Ⅰ 4	環行帯・螺旋帯・蛇行帯		
5	基礎実技Ⅰ 5	折転帯・亀甲帯・麦穂帯		
6	基礎実技Ⅰ 6	冠名包帯：デゾー包帯		
7	基礎実技Ⅰ 7	冠名包帯：デゾー包帯		
8	基礎実技Ⅰ 8	冠名包帯：ヴェルポー包帯		
9	基礎実技Ⅰ 9	冠名包帯：ヴェルポー包帯		
10	基礎実技Ⅰ 10	冠名包帯：ジュール包帯		
11	基礎実技Ⅰ 11	冠名包帯：ジュール包帯		
12	基礎実技Ⅰ 12	部位別包帯：頭部・顔面部		
13	基礎実技Ⅰ 13	部位別包帯：肩部		
14	基礎実技Ⅰ 14	部位別包帯：肘部		
15	基礎実技Ⅰ 15	前期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎実技Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／後期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授業の概要				
柔道整復師は、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を行う。ギブスも行う。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師は、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を目的とする。				
回	テーマ	内 容		
1	基礎実技Ⅰ 16	部位別包帯：前腕部		
2	基礎実技Ⅰ 17	部位別包帯：手関節部		
3	基礎実技Ⅰ 18	部位別包帯：手指部		
4	基礎実技Ⅰ 19	部位別包帯：股関節部		
5	基礎実技Ⅰ 20	部位別包帯：大腿部		
6	基礎実技Ⅰ 21	部位別包帯：膝関節部		
7	基礎実技Ⅰ 22	部位別包帯：下腿部		
8	基礎実技Ⅰ 23	部位別包帯：足関節部		
9	基礎実技Ⅰ 24	部位別包帯：足指部		
10	基礎実技Ⅰ 25	部位別包帯：胸部・背部		
11	基礎実技Ⅰ 26	三角巾を使う		
12	基礎実技Ⅰ 27	三角巾を使う		
13	基礎実技Ⅰ 28	下腿の麦穂帯		
14	基礎実技Ⅰ 29	下腿の麦穂帯		
15	基礎実技Ⅰ 30	後期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎実技Ⅱ		柔道整復学科／1年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授業の概要				
柔道整復師は、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を行う。ギプスも行う。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師は、緩まず確実かつ合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を目的とし、ギプスも行う。				
回	テーマ	内 容		
1	基礎実技Ⅱ 1	テーピングの種類		
2	基礎実技Ⅱ 2	足部のテーピング		
3	基礎実技Ⅱ 3	足部のテーピング		
4	基礎実技Ⅱ 4	膝部のテーピング		
5	基礎実技Ⅱ 5	膝部のテーピング		
6	基礎実技Ⅱ 6	肘部のテーピング		
7	基礎実技Ⅱ 7	肘部のテーピング		
8	基礎実技Ⅱ 8	手関節のテーピング		
9	基礎実技Ⅱ 9	手関節のテーピング		
10	基礎実技Ⅱ 10	指部のテーピング		
11	基礎実技Ⅱ 11	指部のテーピング		
12	基礎実技Ⅱ 12	復習		
13	基礎実技Ⅱ 13	復習		
14	基礎実技Ⅱ 14	復習		
15	基礎実技Ⅱ 15	前期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・ 授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎実技Ⅱ		柔道整復学科／1年	2025／後期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師は、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を行う。ギプスも行う。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師は、緩まず確実かつ合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を目的とし、ギプスも行う。				
回	テ ー マ	内 容		
1	基礎実技Ⅱ 16	キネシオテーピングの取り扱い		
2	基礎実技Ⅱ 17	肩部・上腕部のテーピング		
3	基礎実技Ⅱ 18	肩部・上腕部のテーピング		
4	基礎実技Ⅱ 19	体幹・腰部のテーピング		
5	基礎実技Ⅱ 20	体幹・腰部のテーピング		
6	基礎実技Ⅱ 21	大腿・下腿のテーピング		
7	基礎実技Ⅱ 22	大腿・下腿のテーピング		
8	基礎実技Ⅱ 23	プライトンの作成		
9	基礎実技Ⅱ 24	プライトンの作成		
10	基礎実技Ⅱ 25	クラーメルシーネの作成		
11	基礎実技Ⅱ 26	クラーメルシーネの作成		
12	基礎実技Ⅱ 27	アルフェンス作成		
13	基礎実技Ⅱ 28	アルフェンス作成		
14	基礎実技Ⅱ 29	アルフェンス作成		
15	基礎実技Ⅱ 30	後期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・ 授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格と

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅰ		柔道整復学科／2年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師として必要な各部位ごとの脱臼の発生機序、診断方法、合併症、続発症、整復法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。				
回	テ ー マ	内 容		
1	ガイダンス	授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	脱臼	顎関節脱臼		
3	脱臼	顎関節脱臼		
4	脱臼	頸椎脱臼		
5	脱臼	胸椎脱臼		
6	脱臼	肩鎖関節脱臼		
7	脱臼	胸鎖関節脱臼		
8	脱臼	肩関節前方脱臼		
9	脱臼	肩関節前方脱臼		
10	脱臼	肩関節後方脱臼		
11	脱臼	前腕両骨脱臼		
12	脱臼	前腕両骨脱臼		
13	脱臼	橈骨頭単独脱臼		
14	脱臼	遠位橈尺関節脱臼		
15	前期期末試験	試験実施・解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅰ		柔道整復学科／2年	2025／後期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授業の概要				
柔道整復師として必要な各部位ごとの脱臼の発生機序、診断方法、合併症、続発症、整復法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。				
回	テーマ	内 容		
1	脱臼	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼		
2	脱臼	第1指中手指節関節脱臼		
3	脱臼	近位指節間関節脱臼		
4	脱臼	股関節後方脱臼		
5	脱臼	股関節後方脱臼		
6	脱臼	股関節前方脱臼・発育性股関節脱臼		
7	脱臼	膝蓋骨側方脱臼		
8	脱臼	膝蓋骨側方脱臼		
9	脱臼	外傷性膝関節脱臼		
10	脱臼	ショパール・リスフラン関節脱臼		
11	脱臼	中足、足指部の脱臼		
12	脱臼	脱臼まとめ1		
13	脱臼	脱臼まとめ2		
14	脱臼	脱臼まとめ3		
15	後期期末試験	試験実施・解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅱ		柔道整復学科／2年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師として必要な各部位ごとの軟部損傷の発生機序、診断方法、合併症、続発症、検査法、治療法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。				
回	テ ー マ	内 容		
1	ガイダンス	授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	軟部組織損傷	外傷性顎関節損傷		
3	軟部組織損傷	頭部・顔面部打撲		
4	軟部組織損傷	顎関節症		
5	軟部組織損傷	胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸部・背部打撲		
6	軟部組織損傷	頸部捻挫		
7	軟部組織損傷	胸背部の軟部組織損傷		
8	軟部組織損傷	腰部の軟部組織損傷		
9	軟部組織損傷	腰部の軟部組織損傷		
10	軟部組織損傷	肩部および上腕部の損傷		
11	軟部組織損傷	肩部および上腕部の損傷		
12	軟部組織損傷	肩部および上腕部の損傷		
13	軟部組織損傷	肘部および前腕部の障害		
14	軟部組織損傷	肘部および前腕部の障害		
15	前期期末試験	軟部組織損傷		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・ 授業への出席が5分の4以上を満した者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・ 評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。。 ・ 成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:50点以下 E:50点未満 F:50点未満 E:50点未満

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅱ		柔道整復学科／2年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師として必要な各部位ごとの軟部損傷の発生機序、診断方法、合併症、続発症、検査法、治療法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。				
回	テ ー マ	内 容		
1	軟部組織損傷	手関節および手指部の障害		
2	軟部組織損傷	手関節および手指部の障害		
3	軟部組織損傷	手関節および手指部の障害		
4	検査法	肩部		
5	検査法	上腕部		
6	検査法	肘部		
7	検査法	手関節		
8	検査法	指部		
9	治療法	肩部		
10	治療法	上腕部		
11	治療法	肘部		
12	治療法	手関節		
13	治療法	指部		
14	軟部組織・検査・治療法	総復習		
15	後期期末試験	試験実施・解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:50点以下 E:40点以下 F:30点以下 G:20点以下 H:10点以下 I:0点

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅲ		柔道整復学科／3年	2026／通年	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（90時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

回	テ ー マ	内 容		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅳ		柔道整復学科／3年	2026／通年	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（90時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

回	テ ー マ	内 容		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅴ		柔道整復学科／3年	2026／通年	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（90時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

回	テ ー マ	内 容		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅵ		柔道整復学科／3年	2026／通年	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（135時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

回	テ ー マ	内 容
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		

回	テ　　マ	内　　　容		
36				
37				
38				
39				
40				
41				
42				
43				
44				
45				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅰ		柔道整復学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授業の概要				
柔道整復師として患者の主訴を理解するために体表解剖を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師として患者の主訴を理解するために体表解剖を学ぶ。				
回	テーマ	内 容		
1	臨床実習Ⅰ 1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	臨床実習Ⅰ 2	頭部の体表解剖		
3	臨床実習Ⅰ 3	頭部の体表解剖		
4	臨床実習Ⅰ 4	胸部の体表解剖		
5	臨床実習Ⅰ 5	背部の体表解剖		
6	臨床実習Ⅰ 6	肩部の体表解剖		
7	臨床実習Ⅰ 7	肘部の体表解剖		
8	臨床実習Ⅰ 8	手関節部の体表解剖		
9	臨床実習Ⅰ 9	指部の体表解剖		
10	臨床実習Ⅰ 10	骨盤部の体表解剖		
11	臨床実習Ⅰ 11	大腿部の体表解剖		
12	臨床実習Ⅰ 12	下腿部の体表解剖		
13	臨床実習Ⅰ 13	股関節部の体表解剖		
14	臨床実習Ⅰ 14	膝関節部の体表解剖		
15	臨床実習Ⅰ 15	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編） 、解剖学全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（実技編）		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する ・評価は①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案し判定する。 ・成績はS:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69 D:59点以下とし、C以上を合格とす

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		柔道整復学科／2年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	講師
授 業 の 概 要				
柔道整復師として必要な体表解剖を基礎として、各部位の鑑別診断、患者指導法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
臨床現場における柔道整復師の役割、医療面接から施術までの知識と技術を習得する。 附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。				
回	テ ー マ	内 容		
1	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	患者の状況の的確な把握・鑑別		
2	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	患者の状況の的確な把握・鑑別		
3	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	患者の状況の的確な把握・鑑別		
4	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	患者の状況の的確な把握・鑑別		
5	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	患者の状況の的確な把握・鑑別		
6	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	患者の状況の的確な把握・鑑別		
7	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	患者の状況の的確な把握・鑑別		
8	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	患者の状況の的確な把握・鑑別		
9	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術		
10	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術		
11	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術		
12	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術		
13	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術		
14	患者への指導を理解し実践できる	患者指導		
15	患者への指導を理解し実践できる	患者指導		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編） 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（実技編）		出席率 レポート	80.0% 20.0%	

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅲ		柔道整復学科／3年	2026／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅳ		柔道整復学科／3年	2026／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
		JT2	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（45時間）	必須	
授 業 の 概 要				
授業終了時の到達目標				
回	テ ー マ	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		出席率 授業態度 期末試験	10.0%	・ 授業への出席が5分 の4以上を満たした者 についてのみ試験等 を実施する。 ・ 期末試験は授業時間 内に（原則として最終 まで実施する）
			10.0%	
			80.0%	